

アービタックス®注射液100mgによる治療を受けている患者さんへ ー皮膚の症状と対処についてー

監修: 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科科長 山崎直也 先生

アービタックスによる皮膚の症状

アービタックスは、EGFRというがん細胞を増やす働きをもつタンパクの働きを抑える薬剤です。EGFRは皮膚や毛穴、髪、爪にもあるため、アービタックスを投与すると、にきびのような発しんや乾燥などの皮膚の症状がみられることがあります。

適切な対処が大切

保湿剤やステロイド剤などの薬剤や日ごろのスキンケアによって、がん細胞への治療効果は保ったまま皮膚の症状が現れにくくなったり、軽い症状ですむことが期待できます。

皮膚の症状は、アービタックスがEGFRの働きを抑えていることを示すサインの一つです。皮膚の症状がみられた患者さんはアービタックスの治療効果が高いということが報告されています(皮膚の症状が弱かったり、症状がなくても効果が期待できないわけではありません)。

日常生活でのスキンケアのポイント

肌を清潔に保ちましょう

低刺激で、香料や保存料が入っていない石鹸をよく泡だてて使用しましょう。

シャワーを浴びるときはぬるま湯にし、熱いシャワーは避けましょう。またシャワーを長時間浴びることは避けましょう。

圧迫や刺激を避けましょう

皮膚を強く締めつけるような下着の着用は避けましょう。自分のサイズに合った靴を履き、底の固い靴や、幅の狭い靴を履くのは避けましょう。

自己判断でお薬を塗ることは避けましょう

医師に相談なく市販のお薬を皮膚に塗ることは避けましょう。かえって悪化することがあります。

直射日光、紫外線を避けましょう

紫外線を遮断する効果の高い日焼け止め剤を十分に使用しましょう。

[紫外線の1種であるUV-Aの防止効果はSPF値で示されており、この値が高いほど日焼け止め効果が高くなっています]

外出するときは、広いつばのある帽子をかぶりましょう。

保湿をしましょう

刺激の少ない保湿剤(クリームなど)をこまめに塗りましょう。

シャワーを浴びた後、またはお風呂から上がった後は、できるだけ早く肌に保湿剤を塗りましょう。

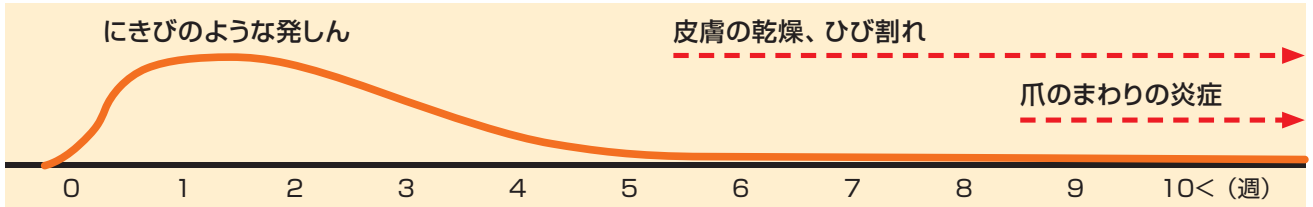
基礎化粧品やメイクアップ用品は、保湿性が高く、低刺激性のものを選びましょう。

〈主治医記入欄〉 皮膚の症状治療のためのお薬について

お薬の名前	使用する部位 (該当する部位に○をつけてください)	お薬を使用する時間帯 (該当する時間に○をつけてください)
	顔・頭・胸・背中・腕・指先	朝・昼・夕・随時
	顔・頭・胸・背中・腕・指先	朝・昼・夕・随時
	顔・頭・胸・背中・腕・指先	朝・昼・夕・随時
	その他()	朝・昼・夕・随時
	その他()	朝・昼・夕・随時

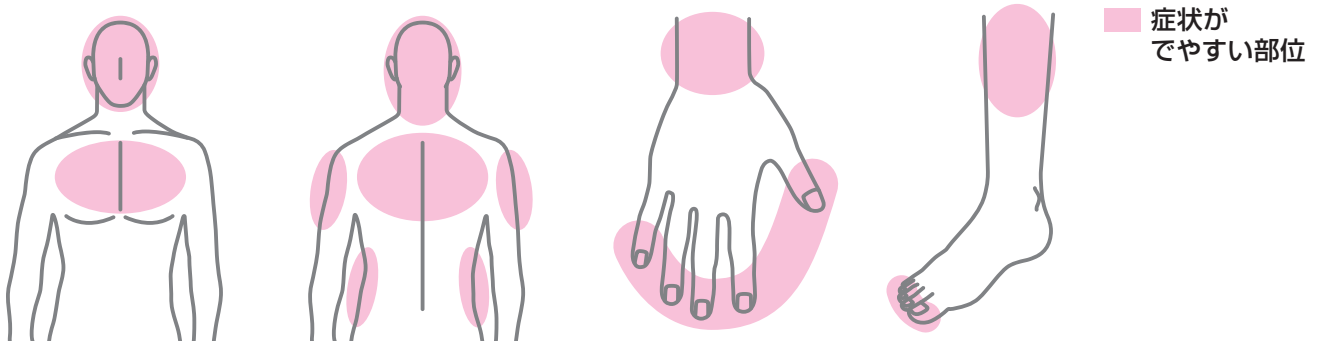
症状の種類ごとの起こりやすい時期

症状の種類によって、起こりやすい時期が違います。一番早く起こるのはにきびのような発しんです。アービタックスの投与開始直後から3週間くらいの間に多くみられます。皮膚の乾燥やひび割れは5週目くらいから、爪のまわりの炎症は少し遅れて8週目くらいから多くみられます。



(Van Cutsem E: Oncologist 2006; 11: 1010-1017)

症状がでやすい部位



皮膚の症状の例

軽い症状



にきびのような発しん



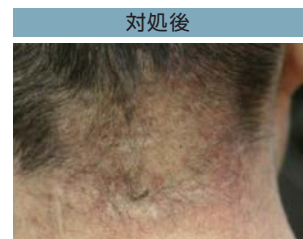
爪のまわりの炎症

中くらいの症状

にきびのような発しん



にきびのような発しん



やや重い症状



乾燥
ひび割れ



爪のまわりの炎症